

中信地区図書館等複合施設見学ツアー 報告書

日 時：令和3年12月14日（火）8:00～18:00

場 所：塩尻市市民交流センター「えんぱーく」

安曇野市穂高交流学習センター「みらい」

池田町交流センター「かえで」

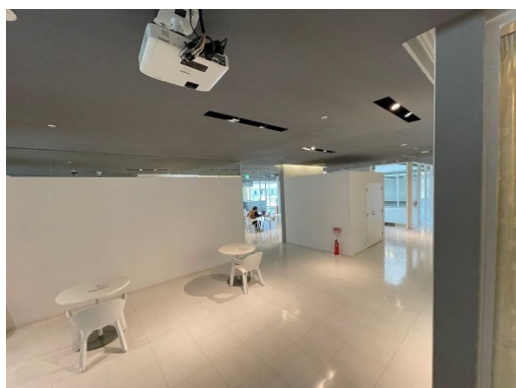
松川村多目的交流センター「すずの音ホール」

松川村子ども未来センター「かがやき」

参加者：15名（内訳：一般5名、検討委員5名、職員5名）

【参加者の感想】

1. 塩尻市市民交流センター「えんぱーく」



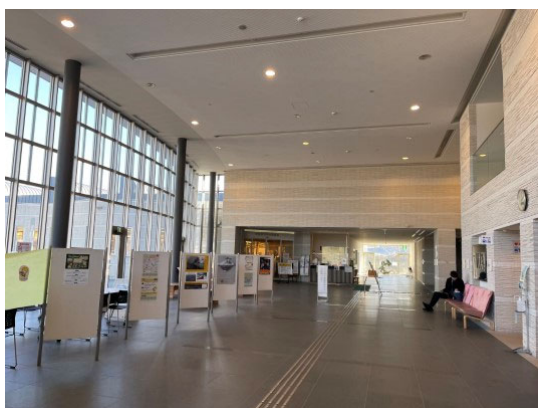
- ・ 通路に貸スペース・フリースペースが数多くあり、有料の利用がない時は自由に使えるように工夫しているのが良かった。壁のないスペースなので、市民の交流ができるのではと思った。
- ・ 図書館の棚1つ1つに電灯が付いていて、書架全体が明るいイメージだった。
- ・ 磁石が使える棚と、余裕のある配架、手に取りやすい高さに重点をおいて図書が置かれているのが印象的だった。
- ・ 特別なニーズのある子どもたちの「りんごのたな」、ビジネスマン向けの棚など、利用者のニーズに沿った棚づくりなど、今後の参考にしたい。
- ・ 柱が少ないので、図書館入口から全体が見渡せて、広さを実感できた。
- ・ 貸出率の高い広丘図書館の選書や棚づくり、他館との相互関係などを聞いてみたい。

- ・ 街中にあるにもかかわらず、縦の空間を活かして居心地の良い場所になっていた。
- ・ 蔵書の配置や様々なお知らせも工夫されていて分かりやすかった。
- ・ 来館者の意見を聞いて、より良くしていこうとする姿勢が素晴らしいと感じた。
- ・ こんな図書館があったらいいなと思った。子育て支援センターとの複合も良かった。
- ・ 塩尻市は市街地に市役所・病院・学校・文化ホールなどを集めるという市をあげての体制づくりができていると感じた。
- ・ 市民の声をたくさん叶えるべくお金も時間もかけてつくりあげた施設だと思った。
- ・ 市が一体となって子ども・障がい者・高齢者福祉に力を入れていて、計画的に進められていると感じた。
- ・ 建設準備段階から市民参加で検討を進め、市民が利用したくなる施設にと気持ちが醸成されていったと説明されていたが、全国有数の高い利用率がそれを表している。見学していても市民が思い思いにくつろいで利用していた。
- ・ 地域の様々な拠点になっている。
- ・ 専門職である司書が意欲的に働いていて、利用者からの要望も多く出されて、良いキャッチボールで常に改善されている。職員に自負心がみなぎっている。
- ・ 子育て支援センターも館内にあり、保育士も配置され利用者も多い。
- ・ 全国から視察が絶えない図書館だけのことはあり、建物の設計から工夫され、トップライトによる吹抜けやガラス張り壁などで明るく、壁柱工法を採用したことによる空間の自由度と有効活用など、設計当初からかなり練られた構想の賜物と感じた。
- ・ 街中の交流の場の創出をコンセプトに、図書館、子育て支援、ビジネス支援、市民活動支援を担う複合施設となっており、2階はフリースペースと有料の会議室が設けられ、誰もが気軽に利用できるに留まらず、床面積での有料貸出までできるようにしてあり、プロジェクターまで設置されていたのには驚かされた。また、会議室もガラス張りで、公開したい場合はカーテンを開けて、活動が他の人にも「見える化」することで交流につながるなど、随所に交流を促す仕掛けが考えられていた。
- ・ 図書館の中では、本の配架に関して、あえて余裕を持たせて、表紙を見せた個所を増やし、文庫と書籍、また雑誌までもが一緒にジャンル別に開架され、新刊本を新刊コーナーからすぐに書架に入れず準新刊コーナーを設けるなど、利用者目線で工夫されていた。また、書架の表示もフレキシブルに変えられるよう、A4の差し込みケースの中身だけをプリントアウトして差し替えられるよう、発展性を考慮したつくりになっていた。
- ・ 子育て支援センターと児童図書コーナーのカウンターが並んで配置され、相互に連携しやすいように工夫され、一般の図書館ともシームレスに繋がられており、利用しやすい工夫がなされていた。子ども向け図書数もとても多く、その多さゆえに選ぶのが苦労するという利用者の声に応え、年齢ごとのおすすめ絵本リストパンフレットも用意されていた。
- ・ 言い出せばキリがないくらい見どころ満載の施設だが、構想段階から住民との対話を繰

り返し、住民目線で作り上げられた結果、利用者はとても多く、図書を借りる目的でない人も多く利用し、住民の居場所になっている点が素晴らしいと感じた。また、職員も大半が非正規ながら年数制限を撤廃し、人材育成に取り組み、住民の要望には「どうしたらできるのか。とにかくやってみる」という姿勢を貫き、進化する図書館を目指していることは、ハード面を整備すればよしとするのではなく、より良いサービスを提供することで多くの人に利用してもらおうとする姿勢が見られ、規模の大小にかかわらずとても参考になった。

- ・ 塩尻のような規模の図書館は望むべくもないが、その空間設計や書架への工夫、司書の姿勢は、白馬村でも取り入れることは可能と感じた。

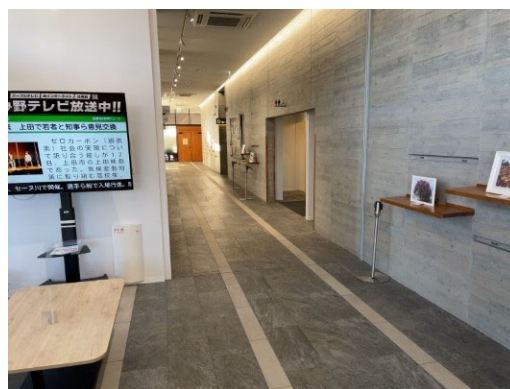
2. 安曇野市穂高交流学习センター「みらい」



- ・ 利用者の探しやすさで別置が付けられ、一部本屋さんのような配架になっていた。利用者には探しやすいと思うが、システムにうまく反映させ、司書やボランティアにもわかる様に一覧表などをつくるなど工夫する必要があると感じた。
- ・ YA（ヤングアダルト）ブックリスト、読書通帳は白馬村図書館でもすぐにできそう。
- ・ 図書館入口からカウンターまで、広くスペースが取られていて気持ち良かった。
- ・ ICタグは値段も高いが、自動貸出や蔵書点検のしやすさで、いいなと感じた。
- ・ 声を出せる「こどもとしゃかん」はとても良いと思う。児童書コーナーは一般書コーナーよりも、どうしても騒がしくなってしまうので、図書館内に子どもが気兼ねなく過ごせる場所が必要だと思う。
- ・ 様々なコーナーが使いやすく配置されていると感じた。
- ・ こどもとしゃかんが充実していて、子どもたちもゆったり過ごせそう。
- ・ 文化ホールと図書館の複合施設。文化ホールを使うことによって図書館の利用が増える。
- ・ 200席くらいの多目的ホールで可動式の座席があるといいとは思いますが、ウイング21ホ

- ールとの兼ね合いが難しい。
- ・ 本に IC タグを埋め込んで自動貸出機でコロナ禍でも自分で貸出手続きができる。
 - ・ 学習室も席数が多く改善されている。
 - ・ 建設当時から雨漏りがあったとの話があり、デザイン優先ではなく地元の建築業者の意見を取り入れることが必要だと感じた。
 - ・ 隣接する公園と一体化した施設で、公園側がガラス張りで明るく、ブラウジングと呼ばれるフリースペースは、平日は高齢者、休日は家族連れなどで賑わっている。
 - ・ コロナ前は 27 万人／年の利用者があるほど多くの住民に利用されている。
 - ・ 展示ギャラリーやホールも備え、その利用率も高く推移している。
 - ・ 塩尻市の「えんぱーく」と同様に IC タグにより蔵書が管理され、自動貸出にも対応していることも、利用者から好評を得ている。
 - ・ 奥には「おはなしのへや」が設けられ、音を気にせず使えるように工夫されている。
 - ・ 設計者が先に決まり、デザイン賞を取るような建物となったものの、新築当初から雨漏りがあったり、雨どいがいないことによる屋根からの排水に苦労していること、子ども図書館の書架が渦巻きになっているため中心部が死角になりやすいなど、デザインが優先された結果、使い勝手や管理に問題を残す結果になっていることは、施設をつくる上での参考とすべき。

3. 池田町交流センター「かえで」



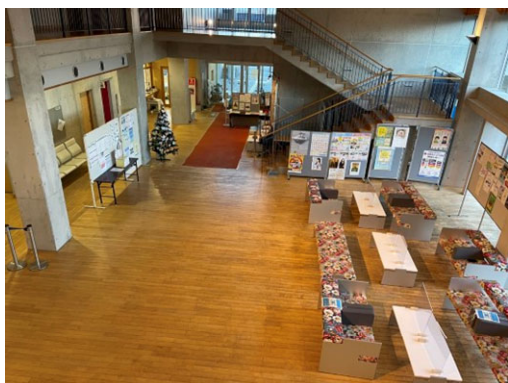
- ・ スペースを有効活用するための仕掛けが多く、建築家の意見も取り入れつつ協議することが大切と思った。
- ・ 図書館の入口が少し狭い。書架が入口にもたくさん配置されていて窮屈そうに見える。カウンター周りのスペースも手狭に感じた。
- ・ 手動で動く書庫棚を白馬でもぜひ入れてほしい。
- ・ 明るい雰囲気。展望テラスから外を見つつ読書できるのが良い。

- ・ 文化ホールと図書館の複合施設。ホールの客席は重ねて収納可能なスタッピングチェア。費用面で可動式の座席を諦めた分、軽くて座り心地の良いイスを調達した。
- ・ 学校の近くにあるため放課後に立ち寄る小中学生が多い。
- ・ 教育委員会事務局が入っている。
- ・ 完成後に「こうしてほしかった」ということがあったとのことなので、図書館に詳しい設計者に関わってもらい、司書も協議に参加し、納得のいくものをつくるのが大切。
- ・ Wi-Fi環境が整備されている。これからの施設には不可欠。
- ・ 中央にあるホールの外周の窓際に飲食可能な机と椅子が配置され、中学生が多く利用して活気があった。
- ・ 町民の要望を日常的に運営に取り入れ、多くの人が利用する施設になっている。
- ・ 図書館と公民館を合わせた複合施設。建設にあたっては、住民と繰り返し協議を重ね、その要望を取り入れる形で造られた。開館時の記念品として中学生が作った菓子を配るなど、住民が自分たちの施設だという意識が高いと感じた。
- ・ ホールの周囲に設けられた窓際のフリースペースは、明るく飲食が自由で、電子レンジや電磁調理器などを備えた小キッチンも設けられ、毎日中学生が多く集まって来るとのこと。住民が気軽に立ち寄れ、交流できる場として機能している。
- ・ 音に関しては、おおらかである一方、子どもたち自身が公共の場でのマナーを身に着けるのにも役立っているようで、とても参考になると思えた。
- ・ 図書館と公民館が一体となったことで、お互いの連携が上手くいくようになったと聞いた。生涯学習という点で同じ施設が一体として動くことは、行政サービスの点でも参考になる。
- ・ 児童図書スペースと子どものフリースペースはつながっているものの、音を気にせず遊べるように通常は仕切られているようで、ちょっともったいない気もした。
- ・ 閉架書庫が、カウンターの正面の壁奥に設置され、一般の利用者も自由に入ることができることが斬新だった。検索できるものの、自分の目で探すことはできない閉架図書にどんなものがあるのか気になった。目的の本がある場合はそれでも良いが、本との出会いは、直接見ないと果たせない場合が多いと思うので、この方法はとてもありがたい。
- ・ ホールは、可動式階段座席は採用せず、フラットな床に軽い椅子を採用したことで、自在な配置・使い方が可能になっている。舞台とホール床は個別に借りることができるようにしているのはユニークで、舞台裏の回廊型のフリースペースが、仕切りを入れることで楽屋として使えるようにするなど、狭いスペースを有効に活用する工夫が面白い。また、壁にも展示ができるように、棚やパネルが吊り下げられるようになっており、学習室も3つに仕切って使えるようにするなど、狭いスペースを有効に利用できるようにする工夫が随所にみられた。
- ・ クラフトルームや防音室まで備えられ、こぢんまりとはしているが、様々な利用ができるように工夫してある点は、白馬村と人口規模が近い施設としては、とても参考になる

と感じた。

- ・ 基本的に住民の不満はほとんどないそうだが、図書館としては、書架の配置など若干の不満があるようで、図書館を設計した経験のある業者が望ましかったとの意見も伺えた。

4. 松川村多目的交流センター すずの音ホール



- ・ ホールと図書館、研修室、調理室、展示ギャラリーなどを備えた複合施設で、役場や公園などと一体的に整備されている。図書館はこじんまりとしているが、奥まで見渡せるワンフロアで、ちひろ美術館の協力があり絵本が充実している。
- ・ 図書館自体は広いし、柱の周りを装飾しているが、入ってすぐに柱があるのは少し残念。
- ・ 床が板張りで、歩く足音が気になる。
- ・ 工作教室などで作った作品を棚上に飾ってあり、施設を利用して活動している団体の発表の場所として利用するのは、面白いと思う。
- ・ 児童書に力を入れていて、児童絵本の書架サインが NDC（日本十進分類表）の番号ではなく「こんちゅう」、「のりもの」など、子どもにもわかりやすいサイン、配架になっている。参考にしたいが、すごく手がかかりそう。
- ・ 何と言っても、目の前に広い公園があるのが最高！
- ・ ホールは可動式の座席のため、いろんなことに使えて便利。
- ・ 基金を積み立てて計画的に施設を建ててきた。
- ・ 当日は閉館日でしたが、以前に行ったことがあり、職員の日常的に工夫した運営に好印象を抱いた。職員は村の職員ということで、やはり直営で運営してほしい。
- ・ 図書館にお話の部屋が併設されているが、小さな子どもたちは少し離れた場所に建設された、子ども未来センター「かがやき」で過ごせるように整備されている。1階が小中学生・高校生、2階が未就学児に分けられ、保護者と子どもが自由に使える。図書館とは絵本の供給のみの連携。この施設以外にも児童クラブや学習教室などがあり、子どもたちに多くの居場所を提供していることから、松川村が子どもたちをいかに大事にして

いるかを伺うことができた。

5. 松川村子ども未来センター「かがやき」



- ・ 子どもの居場所として、とても良いと感じた。
- ・ 小学生に占拠されて、高校生などが追い出されると言われていた。白馬の図書館も同じで、中高生が居られる場所を学習室の設置でも良いので、考えていく必要があると感じた。
- ・ 子どもたちのためにこれだけの施設を創ったのは素晴らしい。
- ・ 故郷を誇りに思えるよう、10年後、20年後を見据えて考えていきたい。
- ・ 「子どもは村の宝」と村長がうたっているように、役場、小学校、文化ホール、子育て支援施設が隣接し、公園も整備されて、子育てに力を入れているということが伺える。
- ・ 小中学生の居場所になっていて、放課後に立ち寄ったり、いつでも誰でも子どもたちは自由に遊び、学習できる場所であった。特に乳幼児の部屋は手作り遊具と床暖房で、子どもたちがのびのびと遊んでいたという印象を受けた。
- ・ 村外の人も無料で利用できる。
- ・ 子育て応援課・子育て世代包括支援センター事務局が入っている。
- ・ 誰でも自由に利用できる施設であることが良い。利用者の笑顔に表れていた。

6. 全体を通しての感想

- ・ 利用者のニーズに沿った配架が重要。
- ・ 図書館の入口、棚の配置・高さによって印象が違う。白馬村図書館は上下とも本が置いてあるので、取りにくいかもしれないと感じた。
- ・ 情報を上手く発信し、新聞などに取材に来てもらえるような企画や展示をしたい。

- ・ 詳しく説明していただいたので良く理解でき、有意義な見学会だった。
- ・ どの施設にも共通していたのは、住民の意思をできる限り取り入れて「住民の、住民による、住民のための」施設にしようとする熱意が感じられたこと。
- ・ みんなで創る図書館になるよう、協力し合っていきたい。
- ・ それぞれ地域にあった図書館を建てられていて素晴らしいと思った。
- ・ 全国的に高評価の施設から町村の施設まで、見学施設の選択は適切だった。
- ・ 事前に質問事項も伝えてあって、限られた時間内で目的が果たせた。
- ・ どの施設も、住民の意見を可能な限り組むように努力し、作り上げている点で、これから整備を考えていく白馬村にとってもこの点はとても重要だと感じた。住民が、自分たちの作った自分たちの施設だと思えるようにすれば、より多くの人に利用してもらえる施設になることを実感した。最後に、塩尻市図書館館長の言葉を借りて「できない理由を探すのではなく、どうすればできるのかを考える」ことを肝に銘じたい。